

社会貢献活動

富士フィルム・グリーンファンドの助成事業(2001年度)

1983年に創立50周年記念事業として10億円を拠出し、「公益信託富士フィルム・グリーンファンド」(FGF)を設立しました。民間企業による自然保護をテーマとした公益信託としては日本で最初のもので、毎年、自然環境の保全・育成に関する活動や研究に対して助成を行っています。2001年度までの助成実績は合計で73件となっています。

大町グランドワークによる上原ピオトープ創出事業 (長野県・ワッパランドの会)

大町市上原地区には市所有の農業用温水路があります。これは、川から引いた冷たい水を田んぼに流す前に温めるための水路です。「ワッパランドの会」は、この農業用温水路と周辺の雑木林をピオトープとして整備することを目的に2年前に結成されました。これまでにピオトープ整備や利用のあり方の検討、植生調査や維持管理作業を行政と市民一体で協議しながら進めてきました。今後も植生や温水路の水質調査をはじめ、市民が昔ながらの農村の自然とふれあう緑地空間を復元し、定期的に環境教育イベントを行い、農村環境の保全整備を地域に促していく予定です。



えひめあやめ指定地の周辺里山整備計画 (静岡県・西浦えひめあやめ保存会)

エヒメアヤメは愛知以南のアカマツ疎林や採草地に生育していましたが、近年、急速に減少し、絶滅が危惧されている種です。「西浦えひめあやめ保存会」では、山口県防府市で15株しか残っていなかったエヒメアヤメの保存のため、下刈りや松疎林の枝打ちなどの活動を昭和20年代から行ってきました。現在、個体数は400株にまで増えています。保存会では、株数を増やすことだけでなく、生育地である里山全体の環境保全を行政に働きかけています。また大学の研究者と共に調査を進めるなど、地域の人々にも生息地保全の大切さを認識してもらえよう幅広く活動しています。



市街地緑地の種の保存と供給機能の研究 (神奈川県・県立弥栄東高等学校)

相模原市は市街化が進んでいるものの、多くの雑木林など豊かな自然が残っています。本研究はこれらの緑地で、植物に生活を依存するチョウや蜻蛉目の生息状況を調べ、相模原に残る緑地の種の保存と供給機能を明らかにすることが目的です。調査方法は環境の異なる緑地11カ所を選定し、チョウおよび蜻蛉目昆虫の捕獲を行い記録を取った後、放逐するもの。弥栄東高等学校ではこれまでに同様の研究を継続して行っており、それらの結果を地元のシンポジウムなどで発表するほか、環境政策に反映させるべく市への働きかけも行っていきます。

